

週報

こひつじ

第40巻 1号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

なぜ泣いているのか

イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、それを園の管理人だと思って言った。「あなた、あの方を運んだのでしたら、どこに置いたのか言ってください。そうすれば私が引き取ります」

イエスは彼女に言われた。「マリヤ」(ヨハネ二〇の一五、一六)

その一 見当違いの涙

「なぜ泣いているのか」
 とイエスは、マリヤに問われた、
 とある。

おそらくそれは、

「あなたはほんとうに泣く必要があつて泣いているのか」

という問いだったのでないだろうか。

結局、マリヤの涙は見当違いのものだったのである。

その場面を振り返ってみよう。イエスの死は、マリヤに大きな

悲しみをもたらしたが、せめてイエスのからだを引き取って、手厚く葬りたい、彼女は、そう思つて墓に向かつたのである。

イエスを葬りながら、イエスの思い出に浸る。今となつては、それが彼女にとっての一番の幸福であつただろう。そこでいくばくかの香油を準備して墓へ行つてみると、何とイエスのからだがないではないか。

どうしたことか。彼女は途方に

くれ、そして泣いた。

するとそこにいた天使が言う。

「なぜ泣いているのですか」

彼女は涙ながらに答えた。

「だれかが私の主を取って行きました。どこに置いたのか、私には

わからないのです」

ところが、その後ろに復活され

たイエスが立つておられたのだ。

彼女はそれに気づかない。

「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか」

とイエスが問われると、マリヤ

は、それが園の管理人だと思つて

言った。

「あなた、あの方を運んだので

謹賀新年

よい年をお迎えになつたことかと思ひます。

昨年は『誰でもよいあなた』へ、投壘通信』という本が心に留まりました。

メッセージを紙に書いて、それを壘(びん)に詰め、海に投じる。すると壘は波に揺られながら、やがてどこかの海岸にたどり着く。

それを拾った人は、壘のなかのメッセージを取り出して、

「ああ、これは私のために書かれたものだ」

そう思つて、感謝して読んでくれるのだそうです。

考えてみると、五〇年にわたるぼくたちの伝道も、『投壘通信』のようなものであつたでしょう。知らないだれかに届いてくれたら、

それでいい。そう思いながら説教をし、週報を発送し、何冊かの本も書いてきました。今年も、きつとどこかで、

「届いた。届きましたよ!」

と、心の中で叫んでくださる方のあるのを信じて、健康である限り、『投壘通信』を続けてゆこうと思つていきます。

米村 英二、幸子

したら、どこに置いたのか言っ
てください。そうすれば私が引き取
ります」
イエスは言われた。

「マリヤ！」

その瞬間、マリヤはその方がイ
エスだとわかった。彼女はどんな
に驚いたことだろう。

マリヤは、自分は不幸な女だと
思っ泣いたが、それはまったく
見当違いの行為だったのだ。むし
ろ彼女は、自分が思い描いたこと
もないような幸福のただ中にいた。

死んだと思っ泣いていたイエスは生き
ておられ、しかも自分のすぐそば
におられたのだから。

以上が、聖書の叙述なのだが、
それは私たちの体験でもある。

私たちはしばしば、泣く必要が
ないのに泣いている。不幸ではな
いののに、不幸だと思っ泣いている。

振り返ってみると、あのとき大
騒ぎして泣いたけれど、なんと見
当違いなことをしていたことか。

もしその結末を知っていたなら、
実は不幸でも何でもなかったのだ。
そういう経験が私たちにもあるの
ではないか。

ヨセフがそうだった。子ども
の頃、兄たちに憎まれ、エジ
プトに売られ、奴隷とされ、罪
もないのに牢獄に入れられた。
なぜこんなことが自分にふりか
か
るのか。彼は自分の不幸な境遇を
うらんだ。そのために何度も泣き、
神に訴えただろう。

しかし彼の人生で起こるべきこ
とがすべて起こったとき、彼は不
思議にもエジプトの総理大臣にな
った。
やがて飢饉が全土を覆い、自分
を奴隷として売り飛ばした兄弟た
ちが、へりくだってヨセフのもと
に食糧を求めてやってきた。
その姿を見て、彼はわかった。
すべては、このときのためだっ
たのだと。父と兄弟たち、つまり
ユダヤ民族を救うために、神は自
分をこのエジプトに遣わされたの
だ。そこで言った。
「あなたがたは、私に悪を計りま
したが、神はそれを、良いことの
ための計らいとなさいました」(創
世記五〇の二〇)

悪でさえ、善に変えられたのだか
ら。
天国へ行ったとき、私たちも知
るだろう。
あの日、あのとき、つらくて、
悲しくて、泣いたけれど、神は、
それらすべてをよいものに変えて
くださったことを。
そして、こう歌うだろう。
あまつ家の門にて言わん
主はみこころなしませりと
(聖歌二九六番)

今日の礼拝

第一礼拝は午前一〇時から、
第二礼拝は午前一一時から。
○教会学校は午前一〇時から。
○説教は米村牧師。

先週の礼拝

○司会は林田実季さん、奏楽は
吉岡隆夫さん。
説教は米村牧師。創世記一の三
〜五。天地が創造されたとき、一

つの過程が終わると、夕があり、
朝があったと書かれています。今
では一日は、朝に始まり、夕に終
わりを迎えます。私たちがの人生も
同じです。そこで、そんな人生を
どう生き、またどう終わったらよ
いかにについて語りました。
○聖さん式を行ないました。
○マレーシアから来てT S M C
に勤務するベニーさんと妻のミッ
シエルさんの紹介がありました。
二人はともに日本政府からの奨学
金でそれぞれ名古屋と大阪の大学
で学びました。言語は英語ですが、
日本語もかなりできます。ぜひお
友だちになってください。またミ
ツシエルさんのおなかには赤ちゃん
んがいます。ぶじ出産を迎えられ
るようにお祈りください。

先週の出席

○礼拝参加者は、第一礼拝が三
九名、第二が四〇名、合計七九名
(男三〇、女四九)。それに子ども
が九名、合わせて八五名でした。